

CORIAN®

Special Edition
NEWS

デュポン・MCC株式会社 設立40周年記念号

デュポン・MCC株式会社

40
YEARS
ANNIVERSARY

122

Toyama, JP

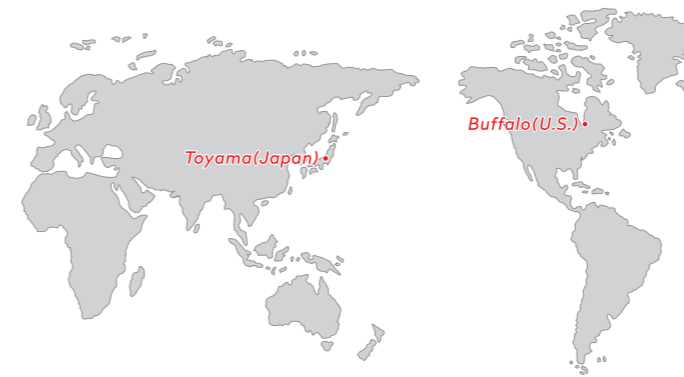
確かな品質と、揺るぎない信頼。
40年の時を重ね、この地とともに。

1986年 米国デュポン社と
日本の三菱ケミカル株式会社(旧 三菱レイヨン株式会社)が手を結び、
デュポン・MCC株式会社が誕生しました。

日本市場においてコーリアン®を展開してから、40年。

一切の妥協を許さない品質基準は、
これからも変わることなく、スタンダードであり続けます。

Buffalo, US



アメリカ発のテクノロジーを、
日本の風土が磨き上げる。

コーリアン®は、メタクリル樹脂を原料とした、アクリル系の人工大理石です。
美しさと実用性を兼ね備えたコーリアン®は1965年、米国デュポン社によって開発されました。

以来、建築・インテリア分野にかかせない素材として世界中で大きな反響を集め、新たなインテリアの表現の可能性を拡大しました。
日本では、1979年からデュポン社日本支社により、日本市場で販売を開始し、国内の富山工場で生産を行っています。住宅や商業施設、公共施設などあらゆる建物のインテリアに用いられ、いまでは世界約130か国の人々に選ばれています。
アメリカと日本の2つの工場で製造されているコーリアン®。

高い生産技術と確かな品質管理のもと、日本の富山工場では、富山工場でしかつくれない製品を手がけ、世界各国に輸出しています。それはつくり手の情熱とひたむきな努力の結晶。建築や空間づくりの現場とともに歩みながら、実績を積み重ね、信頼を築いてきました。
そして、長年にわたり培われた知見を活かし、コーリアン®はこれからも成長し続けてまいります。



デュポン・MCC株式会社の40年の歩み

当社は40年にわたり、時代や市場のニーズに寄り添いながら色柄を生み出してきました。その歩みを礎に、これからも市場にあった新しい色柄を追求してまいります。

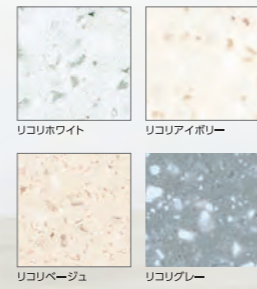
2026

「今の空間に寄り添うニュートラルトーン」新5色を発売



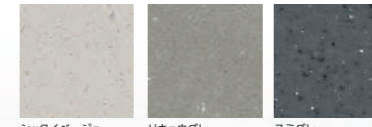
2024

富山工場開発・製造のリサイクル コーリアン® [ReCoRi®] シリーズ発売



2022

富山工場開発・製造の「コトテ」シリーズ発売



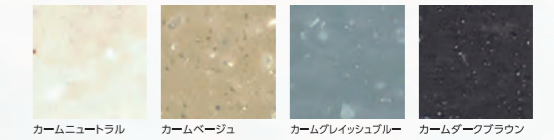
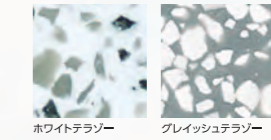
2023

「コトテ」シリーズ「ヨウカンブラウン」発売



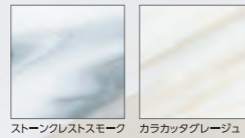
2021

富山工場開発・製造の「サザレ」「ユラギ」シリーズ発売



2025

「Prima」シリーズ新2色発売



2018

「デュポン・MCC株式会社」へ社名変更

2017

「エトワール」シリーズ発売



2004

「グラーサ」シリーズ発売



2009

「デュポン™プライベートコレクション」シリーズ発売



1998

「トレンテ」シリーズ発売



「デザインポートフォリオ」シリーズ発売



1986

米国デュポン社と三菱レイヨン株式会社によるコーリアン®の製造、販売の合併会社「MRC・デュポン株式会社」設立



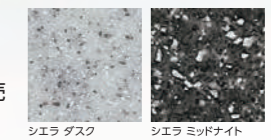
1996

「マグナ*」シリーズ発売



1988

「シエラ*」シリーズ発売

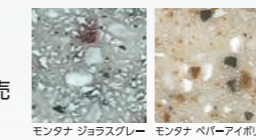


1965

米国デュポン社コーリアン®誕生

1991

「モンタナ」シリーズ発売



*ReCoRi®, Uコリ® は、デュポン・MCC株式会社の登録商標です。



2026 NEW COLORS

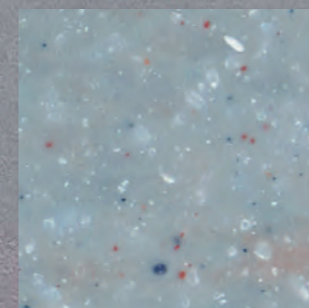
今の空間に寄り添うニュートラルトーン

1986年の設立から40周年を迎えるデュポン・MCC株式会社。
コーリアン®に、新色5色が加わりました。

変化の時代にあって、人はより自然体の美しさを求めています。
2026年、コーリアン®の新色テーマは、
“今の空間に寄り添うニュートラルトーン”です。

過度な装飾ではなく、光や素材の質感を静かに引き立てる色。
アースカラーや鉱物、雪、風の流れといった自然のニュアンスをモチーフに、
穏やかで、心に残るマテリアル感を追求しました。

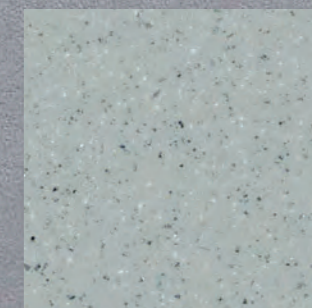
それぞれの色が空間の中で控えめに、しかし確かな存在感を放ちます。



Juniper
ジュニパー(KL)



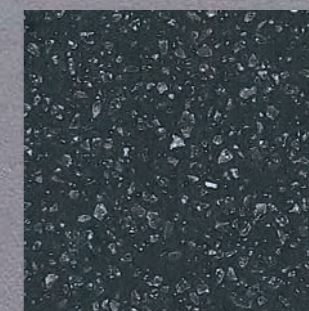
Sorrel
ソレル(MJ)



Dove
ドーブ(DV)



Sparkling Granita
スパークリンググラニータ(SPG)



Recori Black
リコリブラック(RCK)

2026 NEW COLORS



資料請求サイト





Photo: Yoshihito Imaeda

継ぎ目を感じさせないことで 生まれるフラットな会議空間

東京山手調理師専門学校

議論を生む、楕円というかたち

重厚なダークトーンの空間の中心に、楕円形の大きなテーブルが据えられている。天井に浮かぶリング状の光と呼応するその形は、単なる家具ではなく、議論そのものをデザインした装置のようにも感じられる。

東京山手調理師専門学校の6階リニアール工事で整えられた役員用会議室に採用されたのの中でも、空間としての完成度を高められる素材だと感じています」と神山氏。

素材を流し込み、顔料と混ぜり合うことで生まれる「コリアン®ストーンクレストスモーク」の柄は、繰り返しのパターンではない、有機的な流れをもつ表情が特徴だ。1枚ごとに異なる「リアンス」が、大面積においても自然な奥行きをもたらしている。

施工においては、複数の板材を用いながら、全体として自然に見えるようバランスを整えることで、継ぎ目が目立ちにくい仕上がりとしている。素材の特性を踏まえた設計と施工の積み重ねがこの完成度を支えている。

は「コリアン®ストーンクレストスモーク」。約8mの天板を、継ぎ目を感じさせず一体で成立させている。

この空間は、自由に意見を交わせる場を目指して計画されたものだ。設計を手がけた株式会社マツプランニングの神山新氏は、こう語る。

「国際会議のように、立場にとらわれずフラットに議論できる場を目指しました。上下関係を感じさせない空間とすることで、自然と意見が交わる環境をつくりたいと考えています」。

正円ではなく楕円とすることで、全員の視線が自然に交差し、議論の密度を高めるしつらえとした。さらに、テーブルを一体の面として見せることで、空間全体のフラットな印象を強めている。継ぎ目を意識させないことが、空間のあり方にもつながっている。

テーブル形状と連動するリング状の照明や、楕円に呼応するパーティションも空間の一体性を高めている。全体をダークトーンで引き締めながら、壁面には赤ワインを想起させるグラフィックを配し、迎賓性とともに成熟した対話の場としてのイメージを重ねている。

大面積を一体で成立させる素材

この空間の核となるテーブルには、「コリアン®ストーンクレストスモーク」が採用されている。長手方向7,789mm、短手方向5,700mmにおよぶ大きな天板を、継ぎ目を意識させることなく成立させている点が特徴だ。

石のような存在感を持ちながらも、曲線や大きな面を一体的に成形できる点が評価された。

「コリアン®は、継ぎ目を意識せずに大きな面を構成できる点に魅力があります。限られた条件

機能を内包した美しいディテール

東京山手調理師専門学校では、2019年の開校時、受付カウンターに「コリアン®」シラスホワイト」が採用されており、約7年を経た現在も美しさが保たれているという。「その点でも信頼しています」と神山氏。「コリアン®は、日常使いの中でも質感を保ちやすい素材であることが、今回の採用を支えている。

継ぎ目を意識させずに大きな面を構成できること。コリアン®は、その特性によって空間に求められる品格と機能性の双方を支えている。

(文:永山八重)

使用色
ストーンクレストスモーク



- 所在地 / 東京都世田谷区深沢8丁目19-19
- 運営 / 学校法人村川学園
- デザイン・設計 / 株式会社マツプランニング
- 施工 / 薩摩建設株式会社
- コリアン®加工 / 黒崎産業株式会社



Photo: Yoshihito Imaeda

つなぐ力を形に。 受付カウンターに込めた思い

KDDI 高輪新本社

ビジョンを形にした、象徴のデザイン

2025年、KDDIは東京・高輪ゲートウェイシティに新本社を構えた。コンセプトは「つなぐ力を進化させ、ワクワクする未来を発信し続ける Connectable City」(「ネクタブルシティ」)。人・企業・社会を結ぶ街のようなオフィスとして構想されたこの新拠点は、KDDIが長く大切に

術が融合した象徴的な存在。「150年前、人や物流をつなぐ」ために築かれた構造が、この地にあった。まさにオフィスのコンセプトと重なりました」と大沼氏は振り返る。

受付カウンターのデザインは、この築堤から着想を得たという。上から見ると大きな曲線を描き、そのラインがウエイティングエリアのベンチへと自然につながっていく。ベンチの向こうには、窓越しに東京湾の景色が広がり、訪れる人をやさしく迎える。

この曲線は、新橋から横浜へと延びていた築堤の線形をイメージしたもの。

側面の段差とツートーン構成は、その断面を抽象的に映し出している。かつて石を積み、土を重ねて築かれた構造をモチーフに、「スミグレー」で石の力強さを、「サンドストーン」で大地のやさしさを表現。2つの色が呼応しながら空間全体に穏やかな一体感を生み、土地の記憶を今に伝える。

素材と造形の両面から検討を重ね、最終的に、形状の自由度と質感の上品さを兼ね備えたコーリアン®を採用。複雑な形状にもかかわらず、継ぎ目を見せない高い精度で仕上げられた。

「図面を超える完成度で、空間全体を象徴する意匠となりました。築堤の記憶と「つなぐ力」というビジョンが、素材を通してかたちになったと感じています。」と大沼氏。

どの角度から見ても柔らかく美しく仕上げられたカウンター。それは、KDDIが掲げる「つなぐ力」を、空間として体現する存在となった。かつて築堤が象徴した技術の精神が、通信から始まるこれからのインフラのかたちで、この高輪の地に静かに息づいている。

(文・永山八重)

てきた「人と社会をつなぐ」という姿勢を、空間のあり方として表現したプロジェクトでもある。

13階でエレベーターを降りると、まず広がるのが企業の顔となる受付とウエイティングエリア。同じフロアには共創拠点「SUNAGU BASE」が併設され、会議室、イベントスペース、ラウンジ、ショールームなど多様な機能がひとつにつながっている。社員だけでなく、グループ会社やパートナーの方々、行政関係者など、さまざまな人々が行き交う場所だ。

「単なる業務空間ではなく、街のように人々が集まり、出会い、発想が生まれる場所にしたい」とKDDI総務部オフィス戦略グループグループリーダーの大沼悠太氏。

同グループの野村厚氏は、プロジェクトチームでの議論を振り返りながらこう語る。「窓から入った瞬間に東京湾やレインボーブリッジが見える。そんな風景を想像しながら、この土地の特性をどう活かし、訪問されたゲストに何をどのように伝えるのかを、プロジェクトメンバーで考えました。その結果、インパクトがあつて、なおかつ景色やこの街になじむカウンターにしたい。そうした方向にまとまっていきました」。

その中心に据えられた受付カウンターには、KDDIの理念と土地の記憶を重ねたストーリーが込められている。

築堤から着想を得たカウンターデザイン

高輪ゲートウェイシティ建設工事の途中、この敷地で偶然発見されたのが、日本初の鉄道構造物「高輪築堤」だ。

明治初期、海の上に鉄道を通すために築かれたこの構造物は、西洋の鉄道技術と日本の土木技



使用色
スミグレー



サンドストーン



サンドストーン



- 設計・デザイン / 株式会社 日建設計
- 内装・施工 / 株式会社大林組
- コーリアン®加工 / 株式会社インテック、株式会社ライ



Photo: Yoshihito Imaeda

れたのはReCoRI(リコリ)®シリーズの「リコリグレイ」だった。富山工場で製造されるこのリサイクルコリアン®は、業界最高水準(2026年1月時点)当社調べのリサイクル率を誇り、端材を再利用しながらも、従来のコリアン®が持つ高い耐久性、優れた加工性、良好なメンテナンス性をそのまま引き継いだサステナブル素材である。

設計を担った浅子氏は「サステナブルを単に再生素材利用と捉えるのではなく、壊れにくく長く使えることが本質」と語る。ReCoRI(リコリ)®シリーズの採用は、その思想を具現化する選択であった。

コリアン®は熱曲げ加工や、専用接着剤を用いたシームレス接着により自由度の高い造形が可能で、このベンチでもその特性が活かされている。角を残す部分とアールを効かせる部分を組み合わせ、力強さと柔らかさを同時に表現。乃村工

藝社と協働し、モックアップによって角度や曲面のディテールを丁寧に検討することで、彫刻的でありながら人を迎え入れる柔らかな形態が生まれた。

さらに、木材やクッションを加えることで硬質な素材に温もりを添え、長時間でも快適に座れる仕様とした。カラスキームは床のテラゾーと呼応するグレイを基調に、ピンクや白を差し色として採用。女性客の多いルミネらしい軽やかさを取り込みつつ、商業空間にふさわしい華やかさを与えている。

このソファは、エントランスを単なる通路から広場へと転換する仕掛けであり、同時に「長寿命で持続する居場所」を示すデザインでもある。NEWoMan TAKANAWAの館内に点在する多様な居場所の象徴として、これからも訪れる人々を惹きつけ続けるだろう。

(文:永山八重)

エントランスを広場に変える憩いの造形。 サステナブルなソファ

NEWoMan TAKANAWA

交差点を思わせる設計のまなざし

2025年、JR高輪ゲートウェイ駅直結の複合商業施設「NEWoMan TAKANAWA」が開業した。約190のショップが集まり、食・ファッション・カルチャーを融合した新たな商業拠点として計画された、ルミネが展開する「ウーマンの新しい旗艦施設だ。国内外から訪れる人や地域に住まう人々とながら、共に豊かな生活を創り上げていく場として「100年先のまだ見ぬ生活体験価値創造」への挑戦を掲げている。

館内計画の柱となったのは、「大規模な施設の中に小さな居場所を点在させる」こと。巨大な吹き抜けを持たない構造を逆手に取り、エスカレーターや動線が交わる部分を小広場のように設計した。街の交差点のように、人が自然に集まり、立ち止まれる空間を意図している。そのひとつが、THE LINKPILLAR 1 SOUTH棟2階エントランスに設けられたソファである。

このソファは、単なる通路の家具ではなく、エントランスを「広場」へと変える仕掛けだ。設計を担ったのはPRINT AND BUILDの浅子佳英氏。文化施設から商業空間まで幅広く手がけ、近年は出版活動も通じて建築の魅力を伝えている。浅子氏は「エントランスを単なる通過点ではなく、人が立ち止まり集える広場に変えること」を意図し、このソファの設計に臨んだ。

サステナブル素材が生む、やさしさと力強さの造形

当初は左官仕上げによる岩塊のような造形も検討されたが、商業施設に求められる耐久性や維持管理のしやすさを考慮し、最終的に選ば



使用色
リコリグレイ



- 所在地/東京都港区高輪2丁目21番1号
- 設計・デザイン/株式会社シナト、PRINT AND BUILD株式会社
- 内装・施工/株式会社乃村工藝社
- 植栽計画・施工/グランスケープ有限公司
- 家具製作/株式会社三共
- コリアン®加工/株式会社ライト



Photo: Yoshihito Imaeda

くつろぎを纏う、靴選びの場 ホテルライクなやさしい空間

ダイアナ トータルルック ルミネ新宿店

迎え入れ、奥へ導く。曲線がつくる滞在のかたち

さまざまな感性をもつ人が行き交う、ルミネ新宿ルミネ2。その一角にある「ダイアナ トータルルックルミネ新宿店」が、2025年3月に装いを新たにしました。直線的でシャープな什器が並んでいた従来の店舗のイメージから一転し、空間全体を貫くのは、穏やかな曲線と落ち着いた色調だ。空間デザインを手がけたのは、株式会社アッカ

の袴田広基氏。「ルミネ新宿店は、ダイアナの中でもブランドを象徴する旗艦店であり、その更新にあたっては、単なる売り場の刷新ではなく、多様な来訪者の感性を受け止める『場』としてのあり方が求められました」。

複数方向から人の流れを受ける立地条件を踏まえ、空間は開かれた入口から、奥へと表情を深めていく構成とされている。この構成について、袴田氏は次のように語る。

「入口付近にはあえて余白を設け、奥へ進むにつれて商品量を感じられる構成としました。開放感と密度のバランスを丁寧に調整することで、立ち寄りやすさと、じっくり選べる環境の両立を目指しています」。

ゆったりと座れるソファやアイランド型のレジカウンターも、こうした空間構成を支える要素のひとつ。腰を下ろし、時間をかけて向き合うことを前提としたしつらえが、さまざまな感性をもつ来訪者を自然に受け入れている。

素材の使い分けが生む、上質な空気感

こうした過ごし方まで見据えた空間構成を、具体的なカタチとして支えているのが素材の選定だ。カラスキームはグレーベージュを基調にし、ホテルライクな落ち着いた色のある佇まいを形成。一方で、商品の背景には白を用い、靴そのものの存在感や美しさが際立つよう配慮されている。また、空間を引き締めたい場面には大理石

を、造形や質感を重視する部分にはコーリアン®を採用するなど、素材を繊細に使い分けることで、空間全体の完成度を高めている。

視線が集まる店頭のはし器にはコーリアン®「ウィッチヘーゼルII」が採用された。

「曲線を多用した構成だったため、継ぎ目を目立たせず、造形の自由度が高い素材であることが重要でした。コーリアン®は、柔らかな造形と塊感を同時に成立させることができ、空間全体のトーンとも自然になじむ点が決め手になりました」と袴田氏。

自然石を思わせる穏やかな陰影を備えた「ウィッチヘーゼルII」は、グレーベージュを基調とする空間と調和しながら、落ち着いた存在感をもたれている。

コーリアン®の質感、カーペットの繊細なムラ、ソファの控えめな光沢、そして間接照明の柔らかな光。これらが重なり合うことで、ルミネ新宿店ならではの、落ち着いた上質な空間が、空間全体に行き渡っている。

リニューアルを経て生まれ変わったこの旗艦店について、袴田氏は次のように語る。

「ダイアナというブランドが大切にしてきた多様性や居心地のよさを、説明するのではなく、空間そのものから自然に伝えられることを意識しました」。

空間構成や素材選定といった細部の積み重ねによって、その思想は確かに体現されている。

使用色
ウィッチヘーゼルII



■所在地／東京都新宿区新宿3-38-2ルミネ新宿店 ルミネ2 2F
■デザイン／株式会社アッカ





©corareartisansjapan

歴史ある商家に、 新たな息吹を宿した一棟貸し宿

酒蔵ホテル® KIREI

古梁や土間に馴染むキッチン

信州上田、歴史薫る北国街道・柳町で、350
余年にわたり酒を醸し続けてきた岡崎酒造。看
板銘柄「信州亀齢」の芳醇でキレイのある味わいは、
多くの愛好家を魅了している。この岡崎酒造の通
り向かいに佇む古い商家が改修され、一棟貸しの

「リキュウグレー」は古材や土間の色味を邪
魔せず、むしろそれぞれを引き立てて、全体の
調和を保つことができる色合いです。光の当た
り方で表情が変わる質感は、古い商家のしつら
えともじっくりと馴染み、素材の温度差を感じ
させません」と山川氏。
仕上りの美しさには、山川氏自身も驚いた
という。

「シームレスジョイントはコーリアン®の大きな
強みだと知っていましたが、完成した姿を見た
とき、本当に継ぎ目がわからなくて感嘆しました。
玄関でゲストを迎え、宿の第一印象を決定づけ
るのがこのキッチンですから、素材としてとても
良い選択だったと思います」。

機能面でも安心感が大きいという。「キッチン
なので、耐水性・耐汚性は必須です。コーリアン®
は汚れが染みにくく、お手入れも簡単。ゲスト
の前で使う場所なので、手間をかけずに清潔感
を保てるのも利点ですね」と山川氏は語る。

このキッチンは、岡崎酒造の銘酒、四季を味わ
う肴や料理、そして手しごとでつくられた器や
しつらえなど、信州上田の地に息づく文化をゲ
ストに伝える舞台だ。蔵人兼料理人の手によっ
て料理が仕上げられ、美しく盛り付けられる様
子は見応えがあり、コーリアン®「リキュウグレー」
の天板が皿や器、料理の色を華やかに映し出
す。ゲストは完成した料理とペアリングされた日
本酒を、キッチンの隣に配置された小上がりの
座敷でそのまま楽しむことができる趣向だ。

老舗酒蔵の歴史を受けとめ、特別感のある料
理宿として新しい時間を重ねていく酒蔵ホテル®
「KIREI」。その玄関で旅人を迎え、五感で楽しむ
料理体験を提供するキッチン空間は、訪れた人
の記憶に確かな余韻として残り続けるだろう。

(文・菱沼晶)

酒蔵ホテル®「KIREI」に生まれ変わった。

趣のある暖簾をくぐると、古き良き商家の風
情と現代の洗練が融合した空間に、チェックイン
カウンターを兼ねたアイランドキッチンが佇んでい
る。天板から側面までコーリアン®で包み込まれた
塊感のある造形は、美を極めたオブジェのよう。
古い梁や土間が見せる経年の表情と、どこか懐か
しさを感じさせる端正なキッチンが調和している。

設計デザインを担当したのは、富山県南砺市
を拠点とする株式会社コラレアルチザンジャパン
代表取締役の山川智嗣氏と取締役の山川さつ
き氏ご夫妻だ。「この商家が歩んできた時間を
できるだけそのまま残したかったので、土間の補
修跡やコンクリートのひび割れも含めて時間の
レイヤーと捉え、現しのまま活かしています。しつ
とりとした質感で、光を吸い込むような陰影が
出るコーリアン®をキッチンに使うことで、こうし
た既存の古さを味わいとして際立たせることが
できると思いました。また、チェックイン時に宿泊
者が触れたときに感じる手触りも大事です。
コーリアン®は石材のような冷たさや硬さがなく、
やさしい温もりが感じられるのも魅力でし
た」と山川氏は語る。

信州上田の文化を伝える舞台

チェックインカウンターの天板に採用されたの
はコテトテシリーズの「リキュウグレー」。左官仕
上げの手わざを思わせる質感と、伝統色である
利休鼠の深みを持つ繊細な色柄だ。既存の土間
の年月を経たグレーと重なり合い、古梁、塗り
壁、実際に蔵で用いられた酒瓶を溶融再生した
リメルトガラスの照明とも美しく織り成し合っ
て、空間に落ち着きと品格をもたらしている。



使用色
リキュウグレー



■所在地／長野県上田市中央4丁目8-8
■デザイン・設計／株式会社コラレアルチザンジャパン
「酒蔵ホテル®KIREI」は©KURABITO STAY, inc.の登録商標です。



Photo: Yoshihito Imaeda

触ってわかる、誰もが迷わず歩ける美術館へ

東京都現代美術館

つける MOT)だ。模型は1階インフォメーションカウンター横に設置され、来館者が自由に触れて館内動線を把握できる。

美術館は地上と地下が枝状に広がる複雑な構造を持ち、「とくに地下2階がわかりにくく、迷う人の姿がよく見られていた。そこで、障害の有無にかかわらず来館者が身体感覚で空間を理解できる手がかりを増やすため、模型の企画がスタートした」と、事業企画課 教育普及係長の鳥居茜氏は振り返る。

「東京都が推進する『クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー』の一環として、館内をもっとわかりやすく伝える取り組みを強化してきました。複雑な動線を「触れる形」にすることは、当館にとって大きなテーマでした。」

専門家とつくり上げた「触察模型」

模型の制作には、日本デザインセンターの山口萌子氏に加え、視覚障害者の鑑賞に詳しい半田こづえ氏が初期から参加。紙模型の検証や等身大モックアップの確認、模型の高さや角の丸みの調整など、専門家との丁寧な協働を重ねながら進められた。

「模型は、建物外観を伝える「ミニチュア」ではなく、触って館内の構造や位置関係を理解するための道具です。触れたときに空間の区切りや方向性が読み取りやすいよう、触認性を損なわない立体のつくり方を、実際の動線と照らし合わせながら詰めていきました。コーリアン®の高い加工性があったからこそ、こうした細部の表現が自在に実現できたのだと思います。」

こうした検討を経て、本体の表面材として採用されたのがコーリアン®である。多くの来館者

複雑な動線を、触って理解できる形へ

東京都江東区にある東京都現代美術館では、2025年に開催されたデフリンピックを契機として、誰もが作品と空間を楽しめる鑑賞環境づくりに取り組んできた。その成果のひとつが、館内の構造を立体的に示す触察模型(さわる／み

が触れる模型であるからこそ、耐久性とメンテナンス性はもちろん、手に触れた瞬間の「心地よさ」が重視された。

「壊れにくいことはもちろんですが、指紋が残りにくいこと、角を安全に仕上げられること、触れたときの温度感がやさしいこと。そうした条件を満たせる素材でした。」

設置後、いろいろな来館者が模型の稜線や凹凸を見たりなぞったりしながら空間のつながりを確かめている様子が見られるという。視覚障害の有無にかかわらず、立体的な情報は空間理解を助ける。

「平面図より、立体のほうがずっとわかりやすい」という声をいただきました。素材がしっかりしているのので、「壊してしまうかも」という不安がなく、

安心して触れることも大きいのだと思います。」

誰にとっても使いやすい、美しく

鳥居氏は、この模型が「特定の誰かのため」のものではないと言った。

「視覚障害のある方だけに向けたものではなく、どなたにとっても、ここはどういう場所かが理解しやすくなるものとしてつくりました。美術館をもっと自然に、もっと自由に楽しんでもらいたい。その思いを形にしました。」

《さわる／みつける MOT》は、空間に溶け込みながら、東京都現代美術館がめざす「すべての人をウェルカムにする美術館」という理念を、確かなかたちで支え続けていくだろう。(文永山八重)



使用色
カメオホワイト

- 所在地／東京都江東区三好4丁目1-1
- デザイン／株式会社日本デザインセンター
- 製作／株式会社ジャクエツ
- コーリアン®加工／株式会社エイベクス



柔軟な加工性が叶えた造形

閑静な住宅街で、ひときわ存在感を放つモダンな邸宅。LDKに入ると、ダイナミックな空間構成に目を奪われる。大開口サッシで外の広いテラスとつながり、2階の回廊をのぞむ吹き抜けと相まって圧倒的な開放感を生み出している。そこに据えられているのが、アート作品のような有機的な造形のキッチンだ。テーブルからシンク、そして



足元のステップへと流線を描いて連続するフォルムが、床から立ち上がり、空間をなめらかに横断するかのようにつながっていく。

本邸の設計を手がけたのは、株式会社狛犬デザイン一級建築士事務所の狛犬津紗氏。「この住宅では外部とのつながりや段差による空間の切り替えなど、建築全体に連続性を持たせて、それぞれの場所がゆるやかにつながり、ひとつの空間として感じられることを大切にしました。その中でキッチンも、単なる設備ではなく、使える造形物であり、空間の流れをつくる要素として考えています」と語る。

その意図を受けて、キッチンの製作を担当したが、今井商店の代表であり、家具デザイナーの今井智仁氏である。家具としての精度と、建築との一体性。その両立を図りながら大胆な造形を創り上げた。素材にはコーリアン®を採用し、途切れることのない曲線が連続する複雑な形状を、継ぎ目を感じさせない一体的な仕上げで実現している。

「」のキッチンのように面が連続していくデザインでは、加工の精度がとても重要になります。その点でコーリアン®は加工の自由度が高く、設計者のイメージしていた形を無理なく叶えられる素材でした。また、清掃性や耐久性といった実用面でも優れた性能を備えていますから、キッチンの素材として最適でした」と今井氏。シンクもカウンターと同じコーリアン®ですっきりと一体化している。

輪郭を引き立てるニュートラルな色調

コーリアン®の色柄は「ニュートラルアグリゲート」。淡い濃淡を配したベースカラーに繊細な粒

子が散りばめられた流れ模様で、空間に自然に溶け込みながら、造形の輪郭を柔らかく引き立てている。

「強い柄や色だと、どうしても形よりも素材の印象が前に出てしまいます。今回はキッチンのフォルムそのものを感じてもらいたかったので、ニュートラルで奥行きのある表情のものを選びました」と狛犬氏。主張しすぎない色合いでありながら、光の当たり方によって微妙に表情を変える「ニュートラルアグリゲート」は、空間全体のトーンとも穏やかに調和している。

天板はシャープに整え、側面は熱曲げ加工によってなめらかな曲面を形成。シームレスジョイントにより、継ぎ目を感じさせない仕上げが全体の一体感をより高めている。

製作にあたっては、建築との関係性も重要な要素となる。床や躯体にはわずかな個性があるため、現場での微調整を前提に計画が進められた。「分割の方法や調整の余地をあらかじめ考えておくことで、最終的にすっきりと美しく収めることができました」と今井氏。そうした周到な検討と現場での丁寧な調整の積み重ねによって、キッチンは建築と自然に溶け合い、ひと続きの風景として美しく立ち現れている。

「キッチンがきっかけになって、パーティーなどで空間全体がより豊かに使われるようになればと願っています。料理や食事の時間が楽しくなることはもちろんですが、人が集まって会話が生まれるような場所になってくれたらうれしいですね」と狛犬氏。

その言葉の通り、招かれた人々は、このキッチンの彫刻のようなフォルムに自然と引き寄せられ、言葉を交わし、笑顔が重なり合うひとときを共有していくことだろう。

(文 荻沼 昌)



Photo: Yoshihito Imaeda

使用色
ニュートラルアグリゲート



- 設計・キッチンデザイン / 株式会社狛犬デザイン一級建築士事務所
- キッチン設計・製作・施工 / 神戸 今井商店
- コーリアン®加工 / マーブル建材株式会社

流線が形づくる、
彫刻のようなキッチン

大阪府住宅兼オフィス

曲げる、つなぐ、光を通す —

さまざまな加工ができるコーリアン®だからこそ、思い描いたイメージをそのままに、カタチにできます。



使用色: ストーンレストスモーク

複数のコーリアン®の板材を用いて製作された、約8mの楕円形のテーブル。シームレスな仕上がりにより、一体成形を実現しています。

つなぐ

たとえば、10mのカウンターも継ぎ目なく

コーリアン®同士を接合させる、専用の接着剤を使用することで、継ぎ目はほとんど目立ちません。長いカウンターや巨大なテーブル、円形のベンチや複雑な形のオブジェも、シームレスに製作することができます。機能面でも、継ぎ目に汚れがたまりにくい利点もあります。

※色柄によっては、シートの継ぎ目で柄が途切れる場合がございます。詳細と各シートに適合するカラーは右のQRコード・リンクをご参照ください。

シーム接着剤
カラー一覧表



使用色: カメオホワイト

トラス構造の模型を、コーリアン®で再現しています。

使用色: カラカッタグレージュ

コーリアン®を3枚積層し、削り出して加工されたエッジ。

切削

つなぐ

自由自在な加工性

コーリアン®は、木工と同様の工具で加工できる人工大理石です。天然石やタイルに比べて加工しやすく、切断や穴あけ、面とりなど多様な加工に対応します。NCルーターを用いることで、より複雑な形状にも対応可能です。また、透光性のあるカラーは光と組み合わせることで、意匠性の高い演出も可能になります。

「シームレス接着・曲げ加工」 を動画でご覧いただけます

加工動画



「設計・加工・施工ガイド」
をご覧ください



使用色: ヴィッチヘーゼルII

曲線を重ねた柔らかな造形のアイランド仕器は、空間の中心として穏やかな存在感を放ちます。

曲

コーリアン®は、加工しやすいフレキシブルな素材。あなたが思い描いた空間やインテリアをカタチにします。

しっとりとした質感、優れた耐久性、高い加工性と繊細なカラーに定評があるコーリアン®。カウンターに使われる板材でありながら、曲線的なデザインやシームレスな仕上げ、照明とのコラボレーションもできるデザイン素材です。

コーリアン®の特長と共に、いくつかの加工例をご紹介します。

熱曲げ加工で表現する曲面

熱加工により「曲げる」ことができるのも、コーリアン®の特長です。工具で容易に面とりできるので、大きなカーブから小さなカーブまで思い通りに。たとえば、一枚の布のような柔らかなデザインも実現できます。さらに、シームレス接着との組み合わせで、3次元の複雑な曲面を生み出すことも可能です。他の素材では難しい大胆な曲面をコーリアン®で表現してみませんか。



使用色: ニュートラルアグリゲート

流線が形づく、彫刻のようなキッチン。ひとつながりでありながら、役割ごとに領域を描き分けるデザインが、空間にリズムをもたらしています。

BEND



使用色: スミグレー / サンドストーン

熱加工による曲線と鏡面仕上げが織りなす造形美。2つの色が呼応しながら空間全体に穏やかな一体感を生んでいます。

1枚の板からさまざまな形へ姿を変えるコーリアン®

人工大理石 コーリアン®は、幅762mm×長さ3,658mm×厚み12mm*の板材です。板状のコーリアン®を切断・加工し、シームレスに接合することで、思い描いたデザインをカタチにします。

※一部サイズ違いのものもございます。



光との共演

光と組み合わせることで同一素材で異なる表情が楽しめる。昼と夜で変化する質感、独特の雰囲気。

SIX WAKE ROPPONGI



使用色: グレイシアホワイト

©Shinichi Sato

株式会社エービーシー商会 ベンチ



使用色: ホワイトオニックス

Stratospheric by Fletcher Vaughan



使用色: グレイシアホワイト



Make Your Space™

デュポン・MCC株式会社 〒100-6111 東京都千代田区永田町2丁目11番1号 山王パークタワー

コーリアン®について詳しい情報はこちら
<https://dupont-mcc.co.jp/>



公式サイト



お問い合わせ



@dupont_mcc.official



コーリアン®
ニュースの
バックナンバーは
こちらから

バックナンバー

©2026 デュポン・MCC株式会社 著作権:いかなる形式においても許可なく、本誌の一部または全部の複製を禁じます。Copyright ©2026 DuPont-MCC Co., Ltd. All rights reserved. Corian®, コーリアン®, Corian® Designロゴ, Make Your Space™, DuPont™ および™, SM, 又は®表示のあるすべての標章は、別段の記載がない限り、DuPont de Nemours, Inc.の関連会社の商標又は登録商標です。*、ReCoRi®, リコリ®は、デュポン・MCC株式会社の登録商標です。